

ほとんどのカモメは、飛ぶという行為をしごく簡単に考えていて、それ以上のことをあえて学ぼうなどとは思わないものである。つまり、どうやって岸から食物のあるところまでたどりつき、さらにまた岸へもどってくるか、それさえ判れば充分なのだ。すべてのカモメにとって、重要なのは飛ぶことではなく、食べることだった。だが、この風変わりなカモメ、ジヨナサン・リヴィングストーンにとって重要なのは、食べることよりも飛ぶことそれ自体だったのだ。その他のどんなことよりも、彼は飛ぶことが好きだった。

骨と羽根だけだつて平気だよ、かあさん。ぼくは自分が空でやれる事はなにか、やれない事はなにかつてことを知りたいだけなんだ。ただそれだけのことさ。

ジヨナサンはふたたび群れを離れた。そしてただ一羽、はるかな遠い沖合で、飢えながらもしあわせな気持ちで、練習を再開した。

さしあたっての課題はスピードだった。だが一週間たらずの練習で、彼は世界でいちばん速いカモメよりもっと多くのことを、スピードに関して学び終えたのである。

生きることの意味や、生活のもっと高い目的を発見してそれを行う、そのようなカモメこそ最も責任感の強いカモメじゃありませんか？ 千年もの間、われわれは魚の頭を追いかけ回して暮らしてきた。しかし、いまやわれわれは生きる目的を持つにいたつたのです。学ぶこと、発見すること、そして自由になることがそれだ！

カモメのジヨナサン 新潮文庫 リチャード・バック